

【写真】 中村恭子《浸水する記憶一鳩窟》(部分)
絹本彩色、六幅対、各 150×30cm、2025 年、表装：装雅堂

あいだが、 溢れる

人間と人工のあい、
日常のあい、
予感だけでは済まない、何か

学術変革領域研究 (A)

顔身体のデザイン：実践・実証・設計に基づく顔身体の深化と昇華

日本画作品・実験映像 展覧会

2026.8.7^{fri} ~ 8.11^{tue}

[開場時間] 11:00~18:00

トークイベント 参加無料

8.10^{mon} part 1: 14~15pm part 2: 17~18pm

登壇者 笹井一人 (茨城大学／複雑系科学・エージェント工学)
中村恭子 (京都芸術大学／日本画家／芸術基礎論)

〈身体—あいだ〉が、溢れる展

Body as In-Between, Overflowing

会場 ギャラリー Akkey
東京都豊島区西池袋 3 丁目 31-12 オオサキビル

共催 顔身体デザイン C02-K112「憑依する 2.5 人称の認知現象とコミュニケーション支援」; C01「死する身体／不在の身体」

〈問い合わせ先〉 kaoshintai.aa@tufs.ac.jp
(顔身体デザイン C01 事務局)

